令和６年度　学校評価報告書

令和７年３月

津和野町立津和野中学校

学校教育目標：『自分に向き合い、自分を高め、他者とつながる生徒の育成』 ～ Control・Challenge・Communication（３つのＣ）～

目指す生徒像：☆自立に向かう生徒　①ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようとする生徒…【創造】　②支え合い、磨き合う生徒…【友愛】　③主体的に行動し、目標に向かって粘り強く取り組む生徒…【勉学】　④心身を鍛え、よりよい生活習慣を目指そうとする生徒…【清楚】

重点項目	短期目標	達成のための方策	評価対象	評価指標（評価結果）　*1　*2	自己評価 評価*3	自己評価 結果の説明（●）と課題（▲）	学校関係者評価 評価*4	学校関係者評価 コメント（◆）	改善計画 改善策（★）
①【創造】	1)ふるさと教育・キャリア教育の推進	○総合学習(ツワトーク、農林業体験、職場体験等)の計画と実施 ○学びの協働事業と連携した、地域のひと・もの・ことの活用	生徒	○総合的な学習で、地域の方と関わりながら積極的に取り組んでいる。(3.4) ○総合的な学習などを通して、地域のことを考えている。(3.3) ○ツワトークを通して、自分の今の生活や将来のことを考えている。(3.5)	A	●生徒は地域との関わりや自己の将来を意識した学習活動ができたことを成果として挙げている。 ●地域を知り、発信することに繋げるというねらいやツワトークで地域の方と関りながら自分の将来について考えさせることをおおむね達成できた。 ▲ツワトークの実施時期について調整が必要。 ▲総合的な学習の様子や成果を保護者や地域の方に周知する方法の検討が必要。	A	◆学習したことが次の学年に繋がるように計画がされており、一貫性が感じられる。 ◆地域住民で、ツワトークに参加したいが情報が充分でなく参加できない人がいる。新しい方が参加すれば活動も新鮮になる。 ◆今年度２年生で行われたキャリアトークは次年度の職場体験につながるよう計画されている。学習内容に変化があるのは良いと思われる。 ◆高校行事（トークフォークダンス）との日程調整が必要。	★R7年度も2,3年生を対象として、ツワトークの実施を継続。同日開催で参加者確保のため、前年度からつわの学びみらいと打ち合わせを進めておく。地元の方の話が多く聞けるよう参加者の調整をお願いする。 ★サンネットにちはらに広報活動の協力を依頼。学年・学級通信に活動の意義や生徒の振り返りなどを掲載。参加者については、学びみらいと調整。
			保護者	○学校は、地域との関わりを大切にして、ふるさと教育やキャリア教育に取り組んでいる。(3.2)					
			職員	○地域との関わりを大切にした教育計画を立てている。(3.7) ○活動ありきではなく、ねらいを意識した指導を心がけている。(3.3)					
②【友愛】	1)支え合う仲間づくり	○学級や生徒会の活動の充実等による丁寧な集団づくり ○学級や全校の課題解決のための効果的な話合い活動(話合いのサイクル等)の導入	生徒	○互いに協力し、励まし合い、助け合いながら学校生活を送っている。(3.6) ○話合い活動を通して、自分や仲間の課題を解決しようとしている。(3.4) ○友だちのよいところを発見できている。(3.8)	A	●生徒は様々な場面での助け合いながら活動している。SC相談に対して肯定的に捉えているが、家族や友人を相談相手としたいという生徒やそもそも相談する悩みがないという生徒もいる。自分の話をよく聞いてもらえるという感覚をもつ生徒は多い。 ●保護者からは仲間づくりについて、子どもたちの自発的な取り組みを欲する声があった。 ●不登校対応等、欠席が見られ始めた段階でケース会議を開き組織的な対応や関係機関との連携などの支援を行うことができた。 ▲学級活動や生徒会活動において、生徒が主体的に課題解決に向けて話し合いを行えるようにする方策が必要。 ▲よりよい集団づくりに向けての方策が必要。	A	◆SCは何かあった時だけ相談するのではなく、普段から関係づくりを行っていることが大切。家族や友人など相談できる環境があることが良い。 ◆振り返りや反省を繰り返し行うことは大人でも大変だがとても大事なこと。生徒が自分の立ち位置を客観的に把握し次の活動に繋げていくためにも、振り返りを活用してほしい。 ◆ケース会議等の適切な開催を継続してほしい。	★生徒会(委員会)活動の毎月の反省について、生徒が主体的に振り返りや次の活動を考えることができるような記入シートを用意する。各委員会が主催する生徒会行事を繰り返し実施することで運営について話し合ったり、主体的に準備を進めたりする力を育む。 ★学級内で互いの考えを共有しやすくするため、学年・学級通信などに「子どもの声」を掲載し、普段からの意見交流に努め、よりよい集団づくりに取り組む。生徒が主体となって計画する活動として継続する。学級では定期的にグループエンカウンターなどの活動を取り入れ、安心して過ごせる人間関係づくりを行う。 ★欠席の状況を把握しながら、適切なタイミングでケース会議を実施できるようにする。
			保護者	○学校は、集団で活動する場面を設け、支え合う仲間づくりに取り組んでいる。(3.2) ○子どもは、互いに協力し、励まし合い、助け合いながら学校生活を送っている。(3.0)					
			職員	○学級や生徒会の活動の充実等による集団づくりを行っている。(3.4) ○話合い活動を意図的に取り入れている。(3.4) ○集団活動を通して生徒に所属感を持たせたり一人一人の自己肯定感を高めたりしている。(3.4)					
	2)生徒指導・支援の充実	○生徒理解に立った、きめ細かい教育相談の実施	生徒	○困ったことや悩みなどを先生やスクールカウンセラーに相談して解決しようとしている。(2.4) ○先生やスクールカウンセラーは話をよく聴いてくれる。(3.6)					
			保護者	○学校は、生徒の理解に努め、適切に指導・支援している。(2.9)					
			職員	○生徒理解に努め、生徒に声をかけたり相談を受けたりしている。(3.2) ○ケース会議等を通して、適切な生徒指導支援の方策を考えている。(3.8)					
③【勉学】	1)自立に向けた姿勢づくり	○生徒の自立を促すための適切な言葉かけ（褒め、励まし、諭す） ○自己決定場面の設定	生徒	○自分を顧みて、努力すべきことが何か分かっている。(3.5) ○挑戦を意識し、自分の目標の達成に向けて粘り強く努力している。(3.0)	B	●多くの生徒が自分の努力すべきことを認識はしているが、粘り強い努力を行うことまでできている生徒はやや減少する。中には何を努力したらよいかわからないという生徒もいる。学年が上がるにつれて自分を振り返ることができる生徒が増えている。 ●試験前の提出課題に追われている様子から、「学ぶことを喜べるような方法がないか家庭でも模索している」、「学びの本質について考えさせたい」といった声があった。 ●授業実践の項目に比べ家庭学習支援や学習評価等の項目が低い状況にあり、学びの主体を生徒に置く意識が不十分である。 ▲「学びの主体が自分(生徒)たちである」という認識を持たせるための工夫が必要。 ▲自学ノートの活用やそれ以外の方法による家庭学習の実施方法や評価の在り方について検討が必要。 ▲学習用パソコンの活用方法の検討が必要。 ▲「何のために学習をするのか？」について考えたり、生徒どうしや生徒と教員間で意見交換をしたりする時間を設定し、年間を通じて「学習の意義」を考えさせるような声掛けを学校と保護者が協力して行えるような取り組みの検討が必要。	A	◆「勉学」の項目については、全体的に昨年度よりも評価が少しずつ上がっている部分は認められる。一方で、来年度に向けた課題もたくさん挙げてある。色々な取り組みを行っている分、反省点も多くなる面はある。 ◆生徒のやる気の向上につながる様子であればオンラインドリルなどの教材の検討を進めても良いと思われる。生徒が各自で自分の得意、不得意を認識しながら学習を進めていけるとより主体的な学習に繋がるのではないか。 ◆ツワトークのテーマとして、地域の大人が自身が経験した中学校の学習についてどのように捉えているか（今の職業に役立っているか）を聞いてみるのも良いのではないか。 ◆学習は中学校の本質に触れる部分でもあり、課題が多いほうがこれからの発展（伸びしろ）を考えれば、「概ね達成のＢ評価」は妥当であると考える。	★知識を一方的に伝えるのではなく、課題(目標・テーマ)を認識させて、解決していく中で子どもたちの力を育む授業を行う。授業や活動の振り返りを行い、自身の現状(立ち位置)を客観的に把握できるようにする。 ★副教材として、反復学習のしやすいオンラインドリルの導入を検討する。一方で内容をまとめたり要約したりする学習は紙ベースで行うなど、デジタルとアナログの良い部分を取り入れる。※デジタル教材を導入する場合、教材費の負担増を抑えるため、現在使用している紙ベースのワークなどの副教材の精選を行う必要がある。 ★家庭学習の習慣づけに主眼を置いた自学ノートや各教科の宿題を家庭学習として設定する。デジタルドリルを導入した場合は、生徒自身の現状に併せて紙ベースかデジタルドリルかを主体的に選択できるようにする。 ★R6年度は「自律的学習者の育成」という視点で自分に合った学習方法を探るための「学習ミーティング」を行った。次年度は、方法の前に、まず「何のために学習をするのか」という自分の学習に向かう姿勢や意欲につながるテーマについて考える「学習ミーティング」を設定する。
			保護者	○学校は宿題の出し方や学習評価を工夫し、学力の定着や家庭学習の習慣化に向けて取り組んでいる。(3.0) ○子どもは、自分なりに家庭学習に取り組んでいる。(3.0) ○家庭で、子どもは学校の個人用パソコンを学習に活用しようとする様子が見られる。(2.7)					
			職員	○自学ノート等の活用により、家庭学習の確立に向けた指導を行っている。(3.1) ○生徒の学習意欲の向上につながるような評価の工夫を図っている。(3.1) ○一人一人の生徒の状況を把握し、学習方法について助言している。(3.1)					
	2)分かりやすい授業づくり	○授業の工夫・改善 ○授業研究	生徒	○先生は分かりやすい授業になるよう工夫している。(3.6)					
			保護者	○学校の授業や学習指導は適切である。(3.0)					
			職員	○授業研究等の実践を通して授業改善に努めている。(3.4) ○研修計画に沿った研修を進めている。(3.5)					
	3)学習習慣の定着 学びに向かう姿勢づくり	○生徒の意識化を図るための宿題や自主学習の指導 ○生徒の学習意欲につながる学習評価の工夫 ○学習方法等についての学習相談の実施	生徒	○授業や家庭学習等で、学習用パソコンを自分の学びに活用できている。(3.5) ○宿題や自学に取り組むことで、学習習慣が身についてきている。(3.2) ○友だちや先生のアドバイスなどを参考にして、自分の学習方法を工夫している。(3.2) ○定期テストに向けて自己目標を達成するために、計画的に取り組むことができた。(3.1)					
			保護者	○学校は宿題の出し方や学習評価を工夫し、学力の定着や家庭学習の習慣化に向けて取り組んでいる。(3.0) ○子どもは、自分なりに家庭学習に取り組んでいる。(3.0) ○家庭で、子どもは学校の個人用パソコンを学習に活用しようとする様子が見られる。(2.7)					
			職員	○自学ノート等の活用により、家庭学習の確立に向けた指導を行っている。(3.1) ○生徒の学習意欲の向上につながるような評価の工夫を図っている。(3.1) ○一人一人の生徒の状況を把握し、学習方法について助言している。(3.1)					
	4)読書活動の推進	○朝読書の定着と充実 ○学校図書館の利用促進	生徒	○朝読書の時間や学校図書館を利用して、本を読んでいる。(3.1)					
			職員	○朝読書を通して、生徒に対する読書活動を促している。(3.2) ○読書の意義や学校図書館の活用方法等について指導している。(3.3)					
④【清楚】	1)明るい挨拶の習慣化	○明るい挨拶の習慣化に向けた全校体制での取組	生徒	○明るい挨拶をするよう心がけている。(3.6)	A	●挨拶の意義を正しく捉えている生徒がとても多い。生活リズムを整えようと意識している生徒が多いが、夜更かしを反省する声は３年生に多かった。 ●挨拶指導に関して「学校の取り組みがあまり見られない」といった声が寄せられた。メディアについては家庭で積極的に会話するなど危機意識が高い。 ●毎朝の健康観察に睡眠と朝食の項目があることが生徒の健康意識の向上につながっていると考える。メディアに関する指導・啓発は行っているが、計画性に乏しかったことは反省点。 ▲計画的なメディアに関する指導・啓発が必要。 ▲挨拶の習慣化について啓発活動が必要。	A	◆挨拶については各家庭での取り組みがまず第一に行われるべきものである。挨拶に関する保護者質問「学校は、～取り組んでいる。」の評価項目の修正を検討するといいのではないか。 ◆インターネットメディアについては、新たな脅威となる事象が次々と生まれてくる。そのため、最新情報を踏まえつつ、繰り返しメディアについての学習を行う必要がある。	★計画的・定期的なメディアに関する指導や講演会を行っていく。 ★健康観察への入力を通じてよりよい生活習慣の意識づけを行うとともに、感染症の状況や出欠の状況を早期に把握するため入力の徹底を図る。 ★生徒会での取り組みを検討したり、PTA生活指導部に挨拶を啓発する活動への協力をお願いしたりする。普段の生活の中できちんと挨拶ができるような啓発活動を検討する。
			保護者	○学校は、明るいあいさつが習慣化するよう積極的に取り組んでいる。(2.9)					
			職員	○明るい挨拶の習慣化に取り組み、また、習慣化に向けて指導している。(3.3)					
	2)よりよい生活習慣の定着	○メディアとの上手なつきあい方についての保護者との連携	生徒	○生活リズムを整え健康に気をつけて生活している。(3.3)					
			保護者	○家庭で、子ども自身が生活リズムを整え、健康に気をつけて生活するように言葉かけしている。(3.3) ○メディアとのつき合い方について、子どもと話合いをしている。(3.1)					
			職員	○望ましい生活習慣の定着に向けて計画的な指導、啓発が行われている。(3.3) ○メディアとの上手なつきあい方の指導が計画的に行われている。(3.3)					
⑤教育活動を支える基盤	1)人権感覚を高め、互いに認め合う支持的風土の醸成	○生徒一人ひとりを大切にした適切な言葉がけ	生徒	○先生は、適切な指導や支援、アドバイスなどをして、自分が頑張れるようにしてくれていると思う。(3.5)	A	●職員から「適切な指導や支援をしてもらえている」という印象の生徒が多い。 ●学校施設については、「自分たちがしっかり掃除をすることで学校をきれいに保っている」と考えている生徒が多い。トイレの汚れや匂いの対策をしてほしいという声が挙がっていた。 ●保護者から「子どものことを考えていない」「生徒一人一人を理解しながら言葉かけできていない」という声や「行事などで学校に行ってもなかなか職員との接点がない」「学力という一つの物差しで生徒を測る傾向が強いと感じる」という声があった。 ●本アンケートの評価項目に対して、「質問自体が一面的な価値観で構成されているように感じる」という意見があった。 ●昨年度と比較し、情報発信について学年通信の電子化や学級通信の毎週の発行などの積極的な取り組みが評価結果に現れているのではないかと考える。 ▲トイレの汚れや匂いに対する対策。 ▲集団生活を行う学校の中での「多様性の尊重」について、生徒どうしあるいは職員間でも話題にする機会を設け、共通理解を行うことが必要。 ▲校務のICT化、DX化の推進。 ▲自転車小屋、中庭の美化・整備が必要。	A	◆中学生の二人乗りなどを見かけなくなり、自転車の交通マナーは年々向上しているように感じる。一方で、自転車通学をする生徒が増えるため、校門付近の坂道での安全確認やスクランブル交差点の通行ルールなど、警察と協力して交通安全指導を行ってほしい。 ◆引き続き、課題意識をもって学校運営に取り組んでほしい。	★トイレの掃除マニュアルに則り、教員を中心に清掃指導を徹底していく。 ★集団生活の中における多様性について普段から意識して会話したり、学級活動や道徳、人権集会のテーマとして取り上げる機会を設定したりして、生徒・職員ともに意識を高めるようにする。あわせて、一人一人の生徒理解に努める。 ★グーグルクラウドを利用し、行事予定や時間割の情報共有は進んでいる。一方で日々の学習連絡や生徒の欠席連絡など、直接のコミュニケーションも大切にしていきたい。R6年度は学校からのお知らせを紙とマチコミの両方で行ってきたが、R7年度より重要なお知らせ等一部を除き、マチコミでの電子配付を進め、紙の使用の削減を図る。その他、効果が認められるものについてはDX化を順次進めていく。 ★R7年度より全生徒が自転車通学が可能になることに伴い、自転車小屋を整備していく。中庭については、掃除分担を見直し、美化に努める。
			保護者	○職員は、生徒一人一人を大切にした言葉かけをしている。(3.0)					
			職員	○生徒職員一人一人の人権を大切にした教育活動や学校運営が行われている。(3.6)					
	2)組織的な学校運営の推進	○「報告・連絡・相談」を密にした組織的・協働的な対応	職員	○職員の同僚性や協働性を生かした学校運営が行われている。(3.7) ○「報告・連絡・相談」を密にした組織的な学校運営が行われている。(3.5) ○ICT活用、校務のDX化が進んでいると感じる。(3.4) ○教育目標や指導方針を意識して教育活動や学校運営に取り組んでいる。(3.3) ○校務分掌の企画推進等を通して、学校経営に参画している。(3.4) ○ICT活用、校務のDX化を進めることで業務を効率的に進めている。(3.0) ○自らの教育実践を反省し、改善・更新を意識している。(3.3)					
	3)安全で快適な環境づくりへの意識	○安全な施設管理、校舎内外の美化・整備	生徒	○学校の施設は安全できれいになっており、生活しやすい環境である。(3.4)					
			保護者	○学校の施設は安全に管理され、美化整備されている。(3.1)					
			職員	○校舎内外の美化・整備が行われている。(3.4) ○教材備品等が利用しやすく整備され、保守管理が適切に行われている。(3.4)					
	4)開かれた学校づくりの推進	○定期的な情報発信 ○家庭・地域・関係機関等との連携、理解や協力確保への努力	保護者	○授業公開や文書などを通して、生徒の活動の様子や学校方針などを知ることができる。(3.2) ○子どものことについて、学校に相談しやすい。(2.9)					
			職員	○各種通信や家庭連絡、家庭訪問等の手立てや連携がとられている。(3.4) ○保護者や学校関係者等に対して、接遇を心得て、節度ある行動や態度で関わるよう努めている。(3.4) ○外部機関やＳＣ、ＳＳＷ等との連携が適切に図られている。(3.5)					
	5)持続可能な学校運営への着眼	○学校運営協議会導入による学校運営の基盤整理と充実	保護者	○学校運営協議会制度やＰＴＡ活動などを通して、学校の教育活動への参画場面が確保されている。(3.1)					
			職員	○学校運営協議会制度やＰＴＡ活動等により、学校運営に地域や家庭の参画が図られている。(3.5)					

(*1)2学期末にアンケート評価を実施（回答数＝生徒59、保護者39、職員20）　(*2)評定平均値(4段階)、目標値は各項目3.0　(*3)自己評価結果＝水準に対する達成度、自己評価＝評価項目を総括したもの（A＝達成、B＝概ね達成、C＝達成不十分）　(*4)学校関係者評価結果＝自己評価の妥当性（A＝妥当、B＝妥当でない）